

教室通信

電気電子工学科オープンキャンパス 2021
——コロナ禍にあって

企画広報委員会 萩原朋道

電気電子工学科におけるオープンキャンパスへの取り組みの最近の様子について紹介させていただきたいと思います。本誌43号におきましても2019年のオープンキャンパスに関する紹介がなされており、その折にも企画広報委員長へ執筆依頼がなされたものと推察致しております（ちなみに、43号の記事は「企画・広報委員会」としてなのに対して、後のわずかな名称簡素化に伴って本記事では「企画広報委員会」としております）。企画広報委員会、とくに委員長の業務は多岐にわたるのですが、記事にして紹介しやすいのはどうしてもオープンキャンパスの話題に絞られる感があります。オープンキャンパスとともに高校生と大学を結び付ける非常に重要なイベントのひとつとして位置づけられるものとしては、同じく京都大学としての取り組みの一貫として実施されるELCAS（高校生のための体験型学習講座）もあるのですが、こちらに関しては運営のほぼすべてを当該年度担当専攻（旧電気系3専攻で持ち回り）の先生方で構成されるワーキンググループに一任している状況です。

前置きと余談で多くを占めてしまいましたが、前回紹介の2年後に再びオープンキャンパスの紹介をさせていただくことにした理由のひとつは、やはりコロナ禍での開催ということがあります。2020年については早い段階で全学としてオンライン開催が決まり、学科長挨拶、学科紹介、模擬講義、研究紹介3件などを含むコンテンツを専用サイトにアップロードしての“開催”となりました。高校生の興味の持続時間からこれらのコンテンツ全体を60分をめぐりに収めるという全学方針の中で検討し、模擬講義も研究紹介も、従来の対面での実施時と比べれば相当なコンパクト化を図っていただきました。

2021年に関しては本件WGメンバーの献身的ご尽力のもと、感染予防への最大の配慮とできるだけ多くの高校生の対面参加（ないしそれに少しでも近い形態）の確保の両立を念頭に、対面での学科長挨拶や模擬講義の後の研究紹介に関して（2部制実施での参加者入れ換え時における動線の重なりを避ける配慮も含む）綿密な計画を策定しておりました。参加者を少人数グループにわけた上で、吉田キャンパスにおける研究室での対面実施の他、吉田キャンパスで多数の部屋を確保した上で桂および宇治キャンパスのほぼすべての研究室と遠隔で接続するというものです。後者に関しては、吉田キャンパスにも各研究室から若干名の教員・学生の配置も予定していました。このような積極的実施体制を構築しつつあった中で、感染状況に照らして全学としてオンライン実施が決定され、脱力感に見舞われました。結果的には、2020年と同様の形態で同様の長さのオンラインコンテンツを（対面+オンラインで準備していたときと比べるとはるかに限られた数の先生方に）準備いただいたの“開催”となりました。

結局この2年は、基本的にはアップロードされたコンテンツを高校生が見るというだけのオープンキャンパスとなったわけですが、そのコンテンツには、上では触れなかった女性受験生向けのメッセージも実は含まれています。これは、電気電子工学科在籍ないし卒業後に大学院に進学した女子学生の手によるものです。そしてこの部分については別途、準備に関わった女子学生を含む10名以上の女子学生と、女性限定相談申込者の間での意見交換の場を、オンラインではありますが持つことができ、大変好評を博しました。この部分だけがコロナ禍にあって2年とも従来の形を辛うじて踏襲できたのに一番近いわけですが、本企画の女子学生に限らず数多くの先生方から多大なご尽力をいただいたのオープンキャンパス実施への感謝とともに、世の中のあらゆる物事と同じく今後のオープンキャンパスについて新たな可能性を探っていく契機としても多難であった2年を振り返りつつ筆を置かせていただきます。